

ロス対策士の皆さん

「万引など犯罪を犯すのは悪い人間だからだ。だから刑務所で罰を受ければよい。」と短絡的に考えると問題は解決しないと思います。今回は、なぜ万引が起きるのか、特に深刻な社会問題でもあるアメリカの ORC（集団窃盗）に関するレポートのパート 2 です。

（やや思い込みがあり、政治的には民主党色が強くでているのが気になりますが、両側から見る、全体を見るという意味では読んでおきたい内容です。）

また、ブックオフの内部不正についての報道です。

ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

万防機構の X をフォローしてください。「万防機構」と検索すると見つかります。

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構
LP 教育制度作成委員会

ブックオフ HD／架空買い取りの調査報告書を公表、横領・内引きの被害額 5600 万円

ブックオフホールディングスは 10 月 15 日、特別調査委員会の調査報告書を公表した。現金の横領や商品の内引きを伴う不正は 8 件（7 店舗・1 拠点）、財務諸表への影響額 6400 万円、うち横領・内引き被害額は 5600 万円。それ以外の不正は 21 件（19 店舗）、財務諸表への影響額 1700 万円だった。

全ての事案につき、組織的不正の存在は認められず、実行行為者が、個人的な利得や店舗の数値目標達成などを目的として行っていたという。

また、具体的な再発防止策、役職者の処分は、11 月上旬をめどに公表予定だ。

[ブックオフ HD／架空買い取りの調査報告書を公表、横領・内引きの被害額 5600 万円 | 流通ニュース \(ryutsuu.biz\)](#)

*先日ブックオフの株主を対象とした追加説明会でこの問題の原因と対策について説明がありました。内容は割愛しますが、対策は不十分だと私自身は感じました。なお、調査費用は 5 億円で、被害額のおよそ 7 倍でした。その詳細についての質問に対しても不明瞭な回答に終始しました。

「組織的な小売犯罪（ORC）」に対するアメリカの不条理な戦争（その 2）

ターゲット（スーパーセンター）と CVS ファーマシー（ドラッグストア）は、彼らを犯罪の手練れと呼ぶ。そして彼らのほとんどがホームレスや薬物などによる精神疾患を抱えて

いる。

サンフランシスコの刑務所は、大手チェーンストアから窃盗をした容疑で起訴された人々で満杯になり始めている。4月にサンフランシスコの郡刑務所第2刑務所に収監された90人の女性のうち、7人が組織的な窃盗（ORC）の罪に問われていた。ウォルグリーン郊外のおとり捜査で逮捕された25歳のシャリア・ブラウンは、11ヶ月間保釈なしで投獄されている。彼女のケースの性質上、彼女は仲間との情報共有をさせないために、同房者以外の誰とも交流できない。「気が狂いそう」と彼女は言う。

多くのチェーンストアは「資産保護」チームを置き、現在ではボディカメラを装着しているチームもある。大型チェーンはまるで新しい独裁者のようである。

ブラウンは10代を児童養護施設で過ごした。21歳のとき、幼い息子と一緒にオークランドの一泊85ドルのモーターの部屋に引っ越した後、彼女は育児と仕事を見つけるのに苦労した。彼女の隣人は、CVSファーマシーやウォルグリーンのようなドラッグストア・チェーンから、小さなグループと一緒に万引する、より簡単な方法を彼女に教えた。

（会社の方針により、従業員が窃盗の疑いのある人間と肉体関係を持つことを禁じられている。訳注：つまり、彼女の隣人が小売業で働き、そして彼女と肉体関係を持ったという意味にとれる。）

ブラウンが初めてCVSファーマシーで万引したとき、彼女は恐怖を感じた。彼女はただ息子のためにおむつを手に入れただけだったのだが、その試みはいとも簡単だったので、彼女はそれをくりかえすようになった。その後、彼女や街頭の「ブースター」たちは、盗品を値引きで売り、1日500ドルも稼いだ。強盗から身を守るために、彼女は水ゲルペレットを発射するおもちゃの銃を持ち始めた。

昨年10月、ブラウンは、CVSファーマシーを訪れた際に従業員であるトーマス・リドルが彼女の万引行為を止めようとした。防犯カメラ映像では、リドルがブラウンを床に引きずり倒し、ブラウンは立ち上がり、後ずさりしておもちゃの銃を取り出したが、リドルは彼女を殴ったり蹴ったりして応戦した。他の者が介入し、ブラウンは逃げ出すことができた。

数週間後、ブラウンはウォルグリーンでも同様に万引を試みた。彼女と4人の仲間は、店の外に駐車していた覆面警官に逮捕された。他の店舗の防犯カメラ映像と、小売店舗での万引窃盗の取り締まりを専門とする特別タスクフォースにより、警察はブラウンを特定し、彼女を他の事件との関連を明らかにした。地方検事局は、彼女を重罪の組織的小売窃盗（ORC）で起訴し、強盗、暴行、およびおもちゃの銃である武器の使用の罪で起訴した。有罪となれば、最高9年の懲役刑に処せられることになる。

サンフランシスコの公選弁護人事務所によれば、検察官が万引窃盗の容疑者を複数の罪状で起訴することは普通にあり、被告を裁判まで刑務所に留め、より長い期間服役すべきであると主張することが容易になったという。「これは、拘留の申し立てをする上で、その罪状を過大に見せようとするものです。」と、副公選弁護人のエリザベス・カマチョは言う。彼女はまた、組織的な窃盗（ORC）の取り締まりがいかに、[人種差別化](#)されているかにも注目している。彼女の事務所が2019年以降、ORCの容疑で弁護した47人のうち、38人が黒人であった。

小売店舗を狙った窃盗自体はそれほど洗練された手口ではないが、一方で店舗に設置される監視ツールは進化している。1月にエヌビディア(NVIDIA)は、500社以上のテック系スタートアップ企業と協力して、AIベースの「ORCに対抗し、防止するためのリアルタイムソリューション」を構築すると発表した。

フェイス・ファースト社 (<https://www.facefirst.com/>) は大型店向けの顔認識技術を開発し、フロックセーフティ社 (<https://www.flocksafety.com/>) は車のナンバープレート読み取りシステムを開発し「駐車場の周囲に仮想的な境界線」を構築し、ORCなどの店舗の脅威に積極的に対処するとしている。ルルレモンの商品の一部にはチップが埋め込まれており、警備員がリアルタイムで追跡することを可能にしている。保安警備員がボディカメラを装着しているのも珍しくなくなっている。

小売側の防犯監視の活動は、ORCなどの店舗で起きる万引窃盗を取り締まる上で中心的な役割を果たしている。「このような自主的な行動がなければ、私たち警察が成果をあげることは不可能でしょう。小売業者は非常に多くのことをやってくれています」と、ジェフ・ロフティン警部は言う。彼が所属しているカリフォルニア・ハイウェイパトロールは、独自のORC取り締まり部門を持っている。またロフティン警部は、今年1000人以上を逮捕したと言う。

匿名を条件に語った大手衣料品小売企業のORC対策部門の人物は、彼の仕事には、容疑者の居住地まで追跡すること、他の小売業者から監視ビデオを収集すること、地方検事に刑事事件を提示することが含まれていると語った。

以前ターゲットで11年間働いていたこの捜査官は、同社が特に従業員が万引犯に介入することを禁じたのは、再犯者に対する重罪の訴訟を提起するためだったと述べている。つまり店は時間をかけて彼らを監視し、万引犯を見逃し、犯行を繰り返させてから捕捉し、より厳罰に処されることを期待したのである。

ターゲットの広報担当者は、それは同社の方針ではないと述べたが、どのような方針なのかについては説明を拒否した。

ホームレスの人々が店舗で万引窃盗を犯した他の者よりも暴力的であるという証拠はない。むしろ彼らは暴力の犠牲者になる可能性の方が高い。

サンフランシスコでのあるケースも犯罪の立件を目的としたものであるように思われる。2020年、アジザ・グレイブスという43歳の女性が、ターゲット（ウォルマートに次ぐ大手スーパーセンター）で商品をセルフレジでスキャンし、支払いとして1ペニーをセルフレジに挿入するようになった。店舗スタッフは彼女に商品を返すように言ったものの、彼女はそれを無視して何度も同じように1ペニーを支払い商品を持って行った。従業員は彼女を放っておいた。「私は、グレイブスさんをしつこく追う価値がないという結論に達しました」と、ターゲットの資産保護（アセットプロテクション）マネジャーは証言している。

しかし、ターゲットはグレイブスを継続的に追跡し、防犯カメラシステムを導入して、セルフレジマシンを使用して彼女を撮影し、タイドポズ（衣料洗剤）から25セントのショッピングバッグまで、彼女が持って行ったとされるすべてのものの詳細な被害レポートを作成した。彼女が起訴されるまでに、ターゲットの調査担当者は、彼女が100回の盗みを

繰り返して総額で 40,000 ドル以上の商品を盗んだと述べた。4 週間の裁判の後、グレイブスは重罪となる窃盗と 52 件の軽犯罪とみなされる窃盗で有罪判決を受けた。地元のビジネスリーダーや当局者は、この事件は、窃盗が横行している証拠として多くの機会で公表した。グレイブスのような人々は「厚かましく、繰り返し窃盗を犯している」と、サンフランシスコ地方検事のブルック・ジェンキンスは、有罪判決をプレスリリースで世に知らしめた。

ジェンキンスが、この事件に関する多くのインタビューや発言では一度も言及しなかったのは、グレイブスがフードスタンプ（訳注：社会福祉を目的とした貧困者への食品購入クーポンのこと。現在では SNAP と呼ばれ、日本語に直すと補給的栄養支援プログラムという。）で生き延びていたこと、そして、訴訟能力（裁判を受ける能力）があると裁定されたにもかかわらず、彼女の情緒、精神状態が不安定だったことについてである。

例えば、グレイブスは、1 ペニーには無限の価値があると繰り返し主張しており、つまり、ターゲットでの彼女の支払い、彼女が取った商品の価値をはるかに超えているという。彼女と話しをすると、グレイブスは、自分の事件の裁判官がモーリー・ポヴィッチの番組の催眠術師かもしれないと心配していると言った。（モーリー・ポヴィッチ・ショーというテレビ番組で 30 年以上の長寿番組で、さまざまな社会問題やエピソードを取り上げていた）

しかし、6 月、グレイブスの量刑審問で、検察官の行動が裏目に出た。裁判では、地方検事局がジェフリー・ロス判事にグレイブスに 2 年半の懲役を言い渡すか、保護観察処分を受けた場合は、ターゲットに対して 4 万ドルの賠償金を支払うよう命じるよう求めている

しかし、ロス判事は検察官に対し、グレイブスを市内の他の小売店の窃盗と結びつける供述書に心を痛めていると語り、更に地方検察によるプレスリリースは、検察官が果たす役割としては実に不適切だと述べた。判決は彼女を刑務所に戻すことはせず、代わりに彼女に 2 年間の保護観察処分とし、22,000 ドルを支払うよう命じた。3 年にもわたるこの裁判はこれで終わりを迎えた。

彼女が法廷を出ると、ABC ニュースの地元記者は、「刑務所に行かなくてよかったか」と彼女に尋ねた。「あなたに起きたことについて申し訳ない」とグレイブスは答える。レポーターは、彼女が何を言っているのかわからないと彼女に言う。

この裁判や基礎に費やされたすべての努力にもかかわらず、小売店の万引窃盗が組織的であろうとなかろうと、増加しているという具体的な証拠は事実上ない。（訳注：執筆者は万引の問題は貧困にあり、それをことさら小売業や警察当局が大きく取り上げるのは不公平だという意図があるが）警察当局などが示す小売店に対する万引窃盗に関するデータは、小売業者や彼らが資金提供する組織（調査会社）からのみ提供されており、それは独立した調査機関のものではない。昨年、全米小売業協会(National Retail Digital)は、2021 年のロス額 945 億ドルの「ほぼ半分」が ORC によるものであるという主張を撤回することを余儀なくされた。ある研究者は、[実際の数字は 5%に近い](#)と見ている。「組織的小売犯罪＝ORC」という言葉を言い出した者でさえ、それによってどれだけの損失が出るのかはわからない。「誰も知らないし、おそらくこれからも知ることはないでしょう。」と、小売業界や防犯設備やシステムのサプライヤーが資金を提供する非営利団体 Loss Prevention Research Council (LPRC) を設立したリード・ヘイズは言う。「それは風を測るようなものです」

それでも、大手小売業者は、パンデミック後の店舗閉鎖を組織的な窃盗（ORC）のせいに行っている。